

不登校と息子と私

A 氏（10 代の家族）

息子は中学の 3 年間 450 日を欠席しました。登校率はわずか 2 割。息子はいわゆる不登校児、私は不登校児の母という人生を歩んできたわけです。

息子が 2 歳のときに発達障害の疑いで半年ほど療育に通いました。言葉が遅いこと、観察者と目を合わせないこと、スイッチ類に固執することなどが理由でした。その後言葉が爆発的に話せるようになったので療育は終了しましたが、発達のアンバランスは感じていました。

小学校では勉強も宿題も真面目にやっけて、集団行動も普通にできるようになりました。スクールバンドに入会してドラムを演奏するようになったのも小学校中学校でした。親ばかだとは思いますが息子は優秀で私の自慢でした。好きなことや得意分野を伸ばしてあげたいと思っていました。

息子が小学校 4 年生の時に私は離婚しました。息子と二人暮らしになり息子は一人である時間が増えてしまいました。連絡用にスマートフォンを持たせ、家ではネットができる環境でした。息子は自力でパソコンを組み立てるという非凡な才覚をみせ、小学生にふさわしくない殺人を含む残虐なゲームで遊ぶようになりました。

中学 1 年生になった頃、コロナ感染症で学校を休校し、また私がガンの手術をすることになり、息子は一層ゲームにのめり込んでしまいました。私は息子の将来に悲観的な考えに陥りましたが、中学校の先生やスクールソーシャルワーカー（SSW）の先生に「待つこと」を教えてもらいました。そして、SSW の先生に太田病院の不登校外来を紹介されました。不登校外来では睡眠障害とゲーム依存症と診断され、投薬で睡眠をコントロールする治療と音楽療法を勧められました。音楽療法の藤田先生は朗らかで息子を認めてほめてくれる優しいお人柄で、息子が信頼を寄せていきました。先生のピアノと息子のドラムでセッションを行ううち、息子は誰かと一緒に音楽を創り上げることの楽しさを思い出したようでした。

息子は吹奏楽部のある高校に行きたいと希望を持ち、受験に臨みました。現在、高校 2 年生になり、吹奏楽部の部長となりました。大学進学のため勉強も進めています。将来はプログラミングを職業にしたいと言っています。高校はほとんど休んでいません。

ゲームは全くしないわけではなく、ちょうどよい距離感で付き合っているようです。私は息子を見守り応援していこうと思っています。